

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位	
	意思決定特論	後期	水 3	2	
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ		
	大城 絢子	1 年	a.ohshiro[at]okiu.ac.jp		
学びの準備	ねらい	メッセージ			
	日常生活における目標達成や問題解決には、意思決定が必要とされる。本科目では様々な場面・分野における意思決定法を概説し演習を導入することで、代表的な意思決定法を理解し体得することを目標とする。	本科目で学ぶ意思決定手法を、常に自身の研究テーマや身近な事象に当てはめることを意識してください。			
学びの準備	到達目標				
	1. 意思決定の基本理論を理解する。 2. 意思決定の関連研究調査や進捗報告・議論ができる。 3. 情報の分析力・考察力を向上させる。				
学びの実践	学びのヒント				
	授業計画				
	回	テーマ	時間外学習の内容		
	1	オリエンテーション	シラバスの確認		
	2	意思決定法①	文献を読みレポートを作成		
	3	文献紹介とディスカッション①	文献を読みレポートを作成		
	4	意思決定法②	文献を読みレポートを作成		
	5	文献紹介とディスカッション②	文献を読みレポートを作成		
	6	意思決定法③	文献を読みレポートを作成		
	7	文献紹介とディスカッション③	文献を読みレポートを作成		
	8	中間レポートの説明	中間レポートの作成		
	9	意思決定法④	文献を読みレポートを作成		
	10	文献紹介とディスカッション④	文献を読みレポートを作成		
	11	意思決定法⑤	文献を読みレポートを作成		
	12	文献紹介とディスカッション⑤	文献を読みレポートを作成		
	13	意思決定法⑥	文献を読みレポートを作成		
	14	文献紹介とディスカッション⑥	文献を読みレポートを作成		
	15	振り返り	文献を読みレポートを作成		
	16	最終レポートの説明	最終レポート作成		
	学びの実践	テキスト・参考文献・資料など			
		特に指定せず講義内で適宜紹介・配布します。			
学びの手立て					
学びの実践	論文を読み、文献情報を保存する習慣をつけてください。				
	評価				
学びの実践	授業課題50%+中間および最終レポート50%				
	次のステージ・関連科目				
学びの継続	各自の研究・修士論文への反映				

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	応用マクロ経済学特論	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1 年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マクロ経済学における諸理論の検討およびマクロ経済政策関連文献の輪読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養成する。	メッセージ ディスカッションが講義の中心になりますので、問題意識をもって講義に臨んでください。
	到達目標 マクロ経済政策を理論・実証の両面から理解し、経済現象を科学的に分析することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー講義概要、アンケート等ー	シラバスの確認
	2	日本経済概観ーマクロ経済政策、経済成長、地域経済政策等ー	日本経済論に関する予習
	3	経済成長論①ー経済成長の要因ー	マクロ経済学の復習
	4	経済成長論②ー開発と経済発展、労働移動モデル、GDPと幸福度ー	開発経済学関連文献の精読
	5	労働市場ー摩擦的失業と構造的失業、失業とインフレーションー	労働経済学関連文献の精読
	6	経済政策ー財政政策ー	マクロ経済学関連文献の精読
	7	経済政策ー金融政策ー	マクロ経済学関連文献の精読
	8	文献の輪読①ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	9	文献の輪読②ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	10	文献の輪読③ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	11	文献の輪読④ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	12	文献の輪読⑤ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	13	文献の輪読⑥ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	14	文献の輪読⑦ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	15	文献の輪読⑧ーレジュメ作成・報告、解説、ディスカッションー	指定文献の精読
	16	期末評価	マクロ経済政策の復習
	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配布する。 輪読する文献は講義時に指定する。		
	学びの手立て マクロ経済学、経済政策関連の文献を読んでおくこと。		
	評価 受講態度（50％）、提出物（50％）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 産業組織特論、地方財政特論
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄経済特殊研究Ⅰ	通年	木 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	1 年	必要に応じてメール、遠隔講義システムで随時対応。	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（最新版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくこと、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 修士論文のテーマに沿って、先行研究の調査、収集、分析、修士論文の章立て、データ収集、分析、基本理論の理解と展開を受講生間で論議し、視野と視点を広げます。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄経済特殊研究Ⅰ（後期概要ガイダンス）	修士論文の章立て
	2	修士論文のテーマ報告	修士論文の研究計画の作成
	3	修士論文の研究計画報告	沖縄県アジア経済戦略構想の通読
	4	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説①	〃 分析分担部分のPPまとめ
	5	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説②	〃 分析分担部分のPPまとめ
	6	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説③	〃 分析分担部分のPPまとめ
	7	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説④	〃 分析分担部分のPPまとめ
	8	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説⑤	〃 分析分担部分のPPまとめ
	9	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説⑥	〃 分析分担部分のPPまとめ
	10	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説⑦	〃 分析分担部分のPPまとめ
	11	沖縄県「21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書」解説⑧	〃 分析分担部分のPPまとめ
	12	フィールドワーク「米軍基地・キャンプキンザー調査」	ヒアリング先の質問整理とアポ
	13	米軍基地返還に伴う後利用調査①那覇新都心	ヒアリング先の質問整理とアポ
	14	米軍基地返還に伴う後利用調査②小禄金城地区	ヒアリング先の質問整理とアポ
	15	米軍基地返還に伴う後利用調査③ハンビー、美浜地区	ヒアリング先の質問整理とアポ
	16	前期総括	修士論文中間報告
	17	沖縄経済特殊研究Ⅱ（後期概要ガイダンス）	修論の概要報告（進捗状況発表）
	18	東京商工リサーチ『沖縄における経済循環の構造把握調査分析報告書』解説①	〃 分析分担部分のPPまとめ
	19	東京商工リサーチ『沖縄における経済循環の構造把握調査分析報告書』解説②	〃 分析分担部分のPPまとめ
	20	東京商工リサーチ『沖縄における経済循環の構造把握調査分析報告書』解説③	〃 分析分担部分のPPまとめ
	21	東京商工リサーチ『沖縄における経済循環の構造把握調査分析報告書』解説④	〃 分析分担部分のPPまとめ
	22	おきぎん経済研究所他『労働生産性向上に向けた調査報告書』解説①	〃 分析分担部分のPPまとめ
	23	おきぎん経済研究所他『労働生産性向上に向けた調査報告書』解説②	〃 分析分担部分のPPまとめ
	24	おきぎん経済研究所他『労働生産性向上に向けた調査報告書』解説③	〃 分析分担部分のPPまとめ
	25	おきぎん経済研究所他『労働生産性向上に向けた調査報告書』解説④	〃 分析分担部分のPPまとめ
	26	沖縄県『新沖縄振興計画 2021年』解説①	〃 分析分担部分のPPまとめ
	27	沖縄県『新沖縄振興計画 2021年』解説②	〃 分析分担部分のPPまとめ
	28	沖縄県『新沖縄振興計画 2021年』解説③	〃 分析分担部分のPPまとめ
	29	沖縄県『新沖縄振興計画 2021年』解説④	〃 分析分担部分のPPまとめ
	30	沖縄県『新沖縄振興計画 2021年』解説⑤	〃 分析分担部分のPPまとめ
	31	後期総括	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 沖縄県『沖縄21世紀ビジョン基本計画等（沖縄振興計画）総点検報告書』（沖縄県）有識者チーム編『新沖縄発展戦略：新たな新交計画に向けた提言』（沖縄県）沖縄振興開発金融公庫編『沖縄経済ハンドブック』（Ⅱ）日本政策投資銀行編『地域ハンドブック』（Ⅱ）沖縄県『アジア経済戦略構想計画』2017年度版、沖縄県『21世紀ビジョン基本計画（改訂版）』2019年版等
	学びの手立て 基本テキストの通読、関連文献・論文の収集と分析、報告書の概要整理とデータのPP化、発表方法の検討、的確なプレゼン力の向上
	評価 分析と報告の確度、精度、プレゼン力など総合的に評価。 評価は平常点（報告・発表、リアクションペーパー）60%、中間レポート20%、総括報告書で総合的に評価。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 博士後期課程への進学、研究所での調査研究の継続、実務上の調査分析力の発揮

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄経済特殊研究Ⅱ	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2 年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（最新版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくこと、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 修士課程1年目で論文執筆に必要な参考文献・論文・著作・データの収集と図表化を終えておくこと。演習日以外にもフィールドワークや県外・国外調査も実施します。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「はじめに」執筆
	2	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	3	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第1章」執筆修正
	4	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	5	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	6	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第2章」執筆・修正
	7	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	8	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	9	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第3章」執筆・修正
	10	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	11	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	12	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第4章」執筆・修正
	13	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	14	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	15	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「中間報告」PP作成
	16	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	17	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第5章」執筆・修正
	18	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	19	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	20	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「まとめ」執筆・修正
	21	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	22	修士論文執筆指導（個別指導）	参考文献の整理・修正・追加
	23	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「最終報告」PP作成
	24	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	25	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	26	修士論文執筆指導（個別指導）	修論提出書類の作成
	27	修士論文執筆指導（個別指導）	修論印刷
	28	修士論文執筆指導（個別指導）	修論提出
	29	修士論文執筆指導（個別指導）	修論最終審査準備
	30	修士論文執筆指導（個別指導）	修論最終審査準備
	31	修士論文最終審査	修論修正・加筆・訂正等

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 主専攻の院生の修士論文テーマに沿って、随時、テキストと参考文献、資料などを提示、指定します。
	学びの手立て 修士論文テーマに沿って、先行研究論文の調査、収集、分析、経済理論の習得、応用など修士論文執筆に必要な基礎研究を行い、論文執筆に応用します。
	評価 修士論文のテーマ、先行論文研究、経済理論の習得、論文内容などで総合的に評価します。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、調査研究レポート20%、期末試験20%。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄経済特論	通年	木 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	1 年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県企画部『経済情勢』、沖縄振興金融公庫『沖縄経済ハンドブック』など基本データを基に、沖縄県経済が抱えている諸課題を解析。経済分析の基となる「経済データ」の信ぴょう性、確度のと精度の向上を図ります。	メッセージ 沖縄経済の特徴となっている「3K経済」を検証します。「観光入域客数」の算定根拠は？「米軍基地依存経済」の実態は？公共事業予算の地元歩留まり率は？修士論文執筆に不可欠な経済データの調査手法、方法と信ぴょう性を検証します。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄経済の概要（統計データをめぐる課題と処方箋）	経済統計の問題点
	2	沖縄経済の基本データの解析	沖縄経済統計の問題点
	3	在沖米軍基地経済データの検証①基地経済の要素分析	基地経済とは
	4	在沖米軍基地経済データの検証②軍用地料	軍用地料の変遷と特徴
	5	在沖米軍基地経済データの検証③軍雇用所得	駐留軍従業員という仕事の特徴
	6	在沖米軍基地経済データの検証④米軍関係消費支出	米軍関係者の消費の中身は。
	7	在沖米軍基地経済データの検証⑤基地経済の波及効果	基地経済の波及はどこまで？
	8	観光経済データの検証①入域客数の算定方法の検証	入域観光客数の調査方法は？
	9	観光経済データの検証②観光収入の算定方法の検証	観光収入の調査方法は？
	10	観光経済データの検証③観光波及効果算定方法の検証	観光波及効果の調査方法は？
	11	観光経済データの検証④観光産業の収益構造分析	観光産業の「範囲」と「定義」
	12	公共事業・公共投資データの検証①一般公共事業の検証	公共事業費の変遷と地元歩留まり率
	13	公共事業・公共投資データの検証②沖縄防衛局予算の検証	防衛予算の動きと地域経済の関連
	14	公共事業・公共投資データの検証③沖縄県予算の検証	自主財源と一括交付金の動き
	15	経済統計の確度・精度向上のための手法をめぐる考察	統計データのとり方
	16	前期総括	統計データの精度向上を図るには
	17	後期講義の概観（ガイダンス）	政治経済学的視点からみる沖縄経済
	18	沖縄振興策と沖縄経済①「本土との格差是正」論の検証	格差論の陥穽とは
	19	沖縄振興策と沖縄経済②「所得格差」論の検証	所得格差はなぜ縮まらないのか
	20	沖縄振興策と沖縄経済③「高失業率」の検証	失業率はなぜ高いままか
	21	沖縄振興策と沖縄経済④「自立経済」論の検証（域内域外収支バランス）	自立経済と自律経済の概念規定
	22	沖縄振興策と沖縄経済⑤「産業構造」の検証（第三次産業比率と所得）	産業構造と格差の関係
	23	沖縄21世紀ビジョンの検証①「狙い」	自律経済は、自立経済につながるか
	24	沖縄21世紀ビジョンの検証②「目標」	官主導経済の可能性と限界
	25	沖縄21世紀ビジョンの検証③「産業政策」	10年先の産業構造
	26	沖縄21世紀ビジョンの検証④「離島政策」	離島経済の活性化は可能か
	27	沖縄21世紀ビジョンの検証⑤「観光政策」	観光経済の課題と展望
	28	沖縄21世紀ビジョンの検証⑦「農林水産業政策」	農業はなぜ復活したか。
	29	沖縄21世紀ビジョンの検証⑧「モノづくり産業」	モノづくりの課題と展望
	30	アジア経済戦略構想と沖縄21世紀ビジョンの比較検証	アジアの中の沖縄の役割
	31	後期総括	修士論文とは

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 沖縄県企画部『経済情勢』、沖縄振興開発金融公庫『沖縄経済ハンドブック』、沖縄県企画部『沖縄 21 世紀ビジョン総点検報告書』（2021 年）琉球銀行調査部『戦後沖縄経済史』など
	学びの手立て 沖縄経済に関する基本課題を整理します。琉球経済史（近代＝戦前）、沖縄経済史（現代＝戦後）に関する基本資料、主に県史（経済編、現代編）を基礎資料に、沖縄経済の歴史と課題を検証します。琉球国時代の経済と日本統治下での経済振興策、米国統治下での経済振興計画、そして施政権の日本移管（本土復帰）後の沖縄振興計画などを総点検し、経済指標の変化を読み解きます。
	評価 沖縄経済の基本課題に関する調査・分析、経済振興策の効果分析など講義内容の理解度と独自の解析手法、分析手法などをもとに評価します。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、調査研究レポート20%、期末試験20%。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 沖縄経済特殊研究Ⅰ、Ⅱにつながる個別具体的な地域経済課題の解析、分析手法を習得し、新たな経済振興策の策定手法の習得をめざします。

※ポリシーとの関連性		地域における環境と経済を深く理解し研究とは何か、また学問の基礎的な考え方を磨く。		[/ 演習]	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位	
	環境経済特殊研究Ⅰ	通年	木 6	4	
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ		
	呉 錫畢	1 年	メール (sukpil@okiu.ac.jp)で簡略に書いて、研究室に来ること。		
学びの準備	ねらい		メッセージ		
	現在の人類社会は、その存続の前提条件であるはずの生態系そのものの崩壊という危機を含めて、深刻な環境破壊の現実直面している。環境破壊の問題をいかに克服していくことができるかが、21世紀の人類最大の重要課題である。特殊研究Ⅰでは主に環境と経済に関する基礎的なものや、既存研究を検討しながら、各自の論文に必要な基本的な考え方や姿勢を既存論文や本を通して習得する。		研究と私、環境と経済の側面から学問とは何か。		
準備	到達目標				
	社会における問題意識を高めて、環境問題を地域から深める。				
学びの実践	学びのヒント				
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）				
	1-2. 論文とは何か 3-4. 環境のための経済学とは 5-6. 環境と経済のメカニズム 7-8. 環境資源と市場 9-10. 市場の失敗 11-12. 経済価値と環境 13-14. 環境と経済に関する論文発表 14-15. 環境と経済に関する論文発表 16. 前期の総括 17. 環境政策の経済的手段の位置づけ 18-19. 課徴金 20-21. ビグー的補助金及びビグー税 22-23. グリーンニューデール政策 24-25. 排出権取引と地球温暖化 26-27. 先進国と途上国の環境思想 28-29. 論文のサーベイ方法 30-31. 環境と経済に関してディスカッション 32. 総括				
	テキスト・参考文献・資料など				
学びの継続	参考文献を中心として複数の本から院生とともに選択する。 呉錫畢（2008）、『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。 Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White(2001), Introduction to Environmental Economics, Oxford. 植田和弘・森田恒幸編（2003）、環境政策の基礎、岩波書店。				
	学びの手立て				
	書きたい修士論文のテーマに関わる既存論文や著書をなるべく多くサーベイしてディベートする。				
評価	評価				
	発表60%, 討論内容40%で評価する				
学びの継続	次のステージ・関連科目				
	論文に対する問題意識をしっかりと持ち、修士論文を各段階である環境経済特殊研究Ⅱを備える。				

※ポリシーとの関連性 環境と経済に係る専門的な知識を吸収し、研究能力を高める。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名 環境経済特殊研究Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
		通年	月 7	4
	担当者 呉 錫畢	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年	メール (sukpil@okiu.ac.jp)で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 特殊研究Ⅰでは主に環境と経済に関する基礎的なものや、既存研究を検討しながら、各自の論文に必要な基本的な考え方や、論文に対する基本姿勢を本や討論を通して身につけることを目標とした。特殊研究Ⅱでは、このような特殊研究Ⅰで鍛えられたことをベースに、各自のテーマを中心に報告及び自由討論を通して、研究をさらに深めて、修士論文の仕上げを目標とする。	メッセージ 学問とは何か。
	到達目標 修士論文を完成し、研究成果を報告すると同時に研究能力をさらに高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） （前期） 自分のテーマに関する研究論文等を読解し、サーベイする。 また、その論文に自分が貢献しうる部分を発見させ、報告してもらう。 また、夏休み前に調査及び研究テーマを設定する。 （後期） 前期で習得したものを土台に、論文テーマをさらに絞り、その研究に対する部分を深化させ、論文の完成に至るように指導する。
	テキスト・参考文献・資料など 修士論文の内容に相応しい書物から院生と話し合って選択する。 Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White(2001), Introduction to Environmental Economics, Oxford. 植田和弘・森田恒幸編（2003）、環境政策の基礎、岩波書店。
	学びの手立て 既存の論文や著書を多く読み、サーベイを作成し、自分の考え方を確立していく。
	評価 論文の質60%、報告20%、討論内容20%で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会におけるシンクタンク的な役割が果たせるよう努める。
-------	--

※ポリシーとの関連性 環境経済に関する専門知識を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境経済特論	通年	月 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	1 年	メール (sukpil@oku.ac.jp)で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 環境破壊は経済活動に起因する。ところが、経済と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。沖縄は復帰直後、本土との格差是正や所得向上を目的に各種の振興開発事業を推進してきた。その結果、沖縄県経済の規模は著しく拡大したが、各種の公共事業等で大量の赤土等が流出するようになった。本当の豊かにたながっているだろうか、地域問題から考えてもらうのがねらいである。	メッセージ 豊かさとは何か。
	到達目標 環境と経済、豊かさ、地域からアプローチしながら討論を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 経済と環境への入門 2. 何が公害の原点の水俣病をもたらしたか 3. なぜ環境を学ぶのか 4. 持続可能な発展とは 5. 環境政策と政府の役割 6. 第二次世界大戦後の環境問題の変遷 7. 環境問題の国際化と環境政策の新たな展開 8. 経済政策からみる環境政策の手段 9. 環境政策の原則と指針 10. 11. 環境政策の手法（1）（2）（規制的手法・経済的手法） 12. 地球温暖化問題と低炭素化社会を考える 13. 地球温暖化からみるCOP21の意義 14. 地球温暖化の長期的な目標と低炭素社会 15. 16. 沖縄経済と環境政策を論じる 17. 経済問題から環境問題へ 18. 沖縄の経済発展と環境 19. 沖縄経済のディレンマ 20. 沖縄経済発展と観光 21. 環境の経済価値 22. 環境の価値評価手段 23. 環境改善と支払意思額 24. 25. バッグの損害評価1. 2 26. 27. グッズの経済評価1. 2 28. 環境と沖縄の観光経済 29. 内発的発展による沖縄の経済発展 30. 31. 真の豊かさとテーゲー経済学序説1. 2 32. 総括
	テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。 松下和夫（2007）『環境政策のすすめ』、丸善。 呉錫畢（1999）『環境政策の経済分析』、 Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White(2001), Introduction to Environmental Economics, Oxford
	学びの手立て 問題意識を高めるために、地域と関連する論文を逐次紹介しディベートする。
	評価 発表40%、受講態度40%、期末テスト20%で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文を書くための知識を深める。
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	観光情報処理特論	後期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1 年	i. sanjon@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 本講義は観光マーケティング及び観光政策に関する研究において、有用な情報処理と分析能力を養うことを目的とする。マーケティング・リサーチによる1次データ又は各種機関からの2次データを活用して多様な分析方法を演習することで、修士過程で自律的な研究遂行が可能なスキルを身につけることを目指す。	メッセージ 授業で学習・演習した分析方法を多様なデータを活用して繰り返して復習してください。
	到達目標 ①1次・2次観光情報データによる多様な分析方法を身につける。 ②修士論文又は学会投稿を目指す分析能力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	資料を読む
	2	観光情報処理に関する概括	資料を読む
	3	観光情報処理Ⅰ。需要予測①_需要予測の概要、指数平滑法 i	資料を参考に個別演習
	4	観光情報処理Ⅰ。需要予測②_指数平滑法 ii、回帰モデル	資料を参考に個別演習
	5	観光情報処理Ⅰ。需要予測③_需要予測の適用演習 i	資料を参考に個別演習
	6	観光情報処理Ⅰ。需要予測④_需要予測の適用演習 ii	資料を参考に個別演習
	7	観光情報処理Ⅰ。需要予測⑤_個人発表	個別発表準備
	8	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理①_観光客情報処理の概要	資料を読む
	9	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理②_データ処理基礎	資料を参考に個別演習
	10	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理③_t-test、ANOVA	資料を参考に個別演習
	11	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理④_因子分析、信頼性分析	資料を参考に個別演習
	12	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理⑤_回帰分析	資料を参考に個別演習
	13	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理⑥_構造方程式モデル	資料を参考に個別演習
	14	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理⑦_媒介効果と調整効果	資料を参考に個別演習
	15	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理⑧_個人発表 i	個別発表準備
	16	観光情報処理Ⅱ。観光客情報処理⑧_個人発表 ii	個別発表準備
	テキスト・参考文献・資料など SPSSとAmosによる心理・調査データ解析第2版（小塩あつし）、東京図書株式会社 その他、適宜の資料を授業で紹介又は配布する。		
	学びの手立て 授業の進行は主にパソコン室でSPSSやAmosのような統計ソフトを利用して行うため、授業の後、個人演習や復習が求められます。 特に、定量研究方法（アンケート調査など）を考えている受講生は復習が必要だと思います。		
	評価 発表2回で評価します。 1回目：40%、2回目：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング・コミュニケーション特論、マーケティング・マネジメント特論、沖縄経済特論など
-------	---

※ポリシーとの関連性		地域産業の振興に実践的に対処できる人材を育成するための専門的知識を習得する。		[/ 演習]	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位	
	経済情報統計解析特殊研究Ⅰ	通年	火 6	4	
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ		
	兪 炳強	1 年	yu@okiu. ac. jp		
学びの準備	ねらい 近年、インターネットの普及、情報化の進展、統計的アプリケーションの普遍化に伴い、経済・産業情報・データを数量的かつ客観的に分析する能力が必要不可欠である。本特殊研究では、地域産業・経済に関わる統計データや調査データへの多用される統計解析手法の応用能力の向上をめざし、修士論文のフレームワークの構築を指導する。		メッセージ 統計データ分析に関心のある学生を歓迎します。		
	到達目標 ①経済統計データや調査データの収集能力や分析能力の向上。②修士論文のフレームワークの構築。				
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1～4週 学術論文としての形式的・実質的要件に関する指導 第5～26週 統計解析手法の応用に関わる文献の輪読 第27～31週 各自の研究テーマ・課題に関連した研究報告・討論、修士論文の概要作成				
	テキスト・参考文献・資料など 受講者個々の研究テーマなどに応じて、適宜・適時に紹介する。				
	学びの手立て 研究テーマに関連する文献を積極的に入手し熟読することが望ましい。				
	評価 平常点：50％、修士論文のフレームワークの構築：50％				
学びの継続	次のステージ・関連科目 経済情報統計解析特殊研究Ⅱ				

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済情報統計解析特殊研究Ⅱ	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	2 年	yu@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 近年、インターネットの普及、情報化の進展、統計的アプリケーションの普遍化に伴い、経済・産業情報・データを数量的かつ客観的に分析する能力が必要不可欠である。本特殊研究では、地域産業・経済に関わる統計データや調査データへの多用される統計解析手法の応用能力の向上をめざし、修士論文の作成を指導する。	メッセージ 統計データ分析に関心のある学生を歓迎します。
	到達目標 ①経済統計データや調査データの分析能力の向上。②修士論文の作成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1～4週 受講者の修士論文概要に沿った文献の紹介・解説を行う。 第5～15週 受講者が輪番で研究報告・討論を行い、研究内容や分析方法などを検討する。 第16～18週 受講者が輪番で研究報告・討論を行い、修士論文の中間発表内容を検討する。 第19～26週 受講者が輪番で研究報告・討論を行い、修士論文の作成に取り組む。 第27～31週 修士論文の詳細な精査を行う
	テキスト・参考文献・資料など 受講者個々の研究テーマ等に応じて、適宜・適時に紹介する。
	学びの手立て 研究テーマに関連する文献を積極的に入手し熟読することが望ましい。新型コロナウイルスの感染拡大防止による入構禁止の場合は特例授業（遠隔授業）形式で行う。その際は受講者に事前連絡する。
	評価 平常点：50％、修士論文の作成：50％

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職後の社会人としての活躍、または進学。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済情報統計解析特論 A	通年	火 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	1 年	yu@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、経済統計データや調査データなどを用いた定量的な実証分析を行うための実用的な統計解析の知識を身につけることである。近年、インターネットの普及によって簡単に経済統計データの入手が可能となり、またSPSSなど統計解析用ソフトウェアを活用して経済統計データや調査データの分析技法を学ぶ。	メッセージ 統計データ分析に関心のある学生を歓迎します。
	到達目標 経済統計データや調査データの収集能力や分析能力の向上。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 オリエンテーション 第2～3週 SPSSの基本操作 第4～5週 統計解析の基礎 第6～7週 時系列データの基礎的分析 第8～9週 横断面データ（質的・数量的データ）の基礎的分析 第10～11週 統計的検定 第12～13週 回帰分析 第14～15週 非線形回帰分析 第16～17週 判別分析 第18～19週 主成分分析 第20～21週 因子分析 第22～23週 クラスター分析 第24～26週 数量化理論 第27～31週 総合演習
	テキスト・参考文献・資料など プリントまたはPDFファイルで配布します。参考文献についてはその都度紹介する。
	学びの手立て 授業時間外でソフトウェア操作の練習や学習した分析手法の実演習が望ましい。
	評価 平常点：50％、レポート：50％

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済情報統計解析特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済情報統計解析特論B	後期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	友知 政樹	1 年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業のねらいは大きく分けて二点ある。第一点目は、計量経済学的分析が使用されている論文を読みこなすことができる理解力を身に着けることである。第二点目は、様々なデータに対して自ら計量経済学的分析を施す実践力を身につけることである。これらのねらいのもと、計量経済学についてその理論と方法を講義形式と演習形式を織り交ぜながら学んでゆく。	メッセージ 一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！
	到達目標 ねらいの達成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 01 オリエンテーション(計量経済学の理論と方法) 02 回帰モデル1（最小二乗法，検定，予測） 03 回帰モデル2（ダミー変数、多重共線性） 04 回帰モデル3（応用演習） 05 古典的回帰モデルの拡張1（不均一分散） 06 古典的回帰モデルの拡張2（系列相関） 07 古典的回帰モデルの拡張3（応用演習） 08 連立方程式モデル1（間接最小二乗法） 09 連立方程式モデル2（2段階最小二乗法） 10 連立方程式モデル3（応用演習） 11 計量経済分析の実践1（各自でデータ分析） 12 計量経済分析の実践2（各自でデータ分析） 13 計量経済分析の実践3（各自でデータ分析） 14 計量経済分析の実践4（分析結果の発表） 15 まとめ 16 試 験
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時資料を配布する。
	学びの手立て 毎回出席すること。
	評価 講義毎の課題提出(50%)、最終試験(50%)により総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院ゼミ
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	産業組織特殊研究Ⅰ	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1 年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業組織論に関する基礎的な知識ならびに論文作成に必要な知識を前期で習得する。後期では修士論文に係わる特定課題に関する文献について報告し、議論を通じて修士論文のテーマについて絞り込んでいく作業を行っていく。	メッセージ 論文作成のスキルを磨くと同時に日頃から新聞等を通じて情報収集を行いテーマ設定のための問題意識を涵養してください。
	到達目標 産業組織論に関する基礎知識の習得を通じて修士論文のテーマ設定と論文作成の準備を行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方	シラバスを事前に確認
	2	修士論文の作成方法について	論文作成方法について確認する
	3	産業組織論の基本文献の説明	論文作成方法について確認する
	4	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	5	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	6	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	7	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	8	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	9	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	10	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	11	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	12	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	13	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	14	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	15	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	16	前期の総括	前期の課題について考えておく
	17	後期日程のガイダンス	事前にシラバスを確認しておく
	18	修士論文に関する特定課題の選定	修士論文のテーマ設定
	19	研究計画書の作成・指導	計画書案の作成
	20	研究計画書の作成・指導	計画書案の修正
	21	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	22	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	23	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	24	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	25	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	26	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	27	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	28	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	29	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	30	課題報告に関するレポート提出	修士論文に関する文献の精読
	31	総括	ここまでの課題について考える

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。 適宜、紹介する。
	学びの手立て 報告者はきちんと事前に報告準備を行うようにしてください。議論には全員が参加するように。
	評価 授業参加度（30％）、レポート、報告、質疑応答等（70％）により総合的に評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 産業組織特殊研究Ⅱ

科目基本情報	科目名 産業組織特殊研究Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
		通年	月 5	4
	担当者 宮城 和宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 修士論文を完成させる。そのための指導を行う。	メッセージ 修士論文作成のスキルは、現代の情報が氾濫する正解のない社会において非常に重要な役に立つスキルになります。ベストを尽くすようにしてください。
	到達目標 修士論文を完成させる	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎回、修士論文の内容について発表してもらう。その後、議論し、必要な指導を行う。 時間外学習の内容：修士論文作成と報告の準備をすること	
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし	
	学びの手立て 議論に積極的に参加するようにしてください。	
	評価 授業参加度（30％）、報告・発表・議論等の内容（70％）から総合的に評価する	

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 実社会での実践あるいは大学院博士課程への進学
-----------------------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	産業組織特論	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1 年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業組織論は、産業内構造と企業行動・パフォーマンスとの関係、政府の規制・競争政策を分析対象とする現実的かつエキサイティングな学問分野である。産業組織論を学ぶことにより、就職活動で業界研究をする際に、各業界についてより深い洞察を得ることが期待できる。本講義では、産業組織論に関する基礎的な考え方を理解できるようにすることを目標とする。	メッセージ 産業組織論は実社会でも役に立つ学問です。この講義で分析手法等を身につけるようにしてください。
	到達目標 産業組織論の基礎について理解できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション：講義内容の紹介	シラバスを事前に確認
	2	産業組織論の2つのアプローチ	テキスト、配布資料等の自習
	3	企業の理論（1）	テキスト、配布資料等の自習
	4	企業の理論（2）	テキスト、配布資料等の自習
	5	企業と費用	テキスト、配布資料等の自習
	6	完全競争と独占（1）	テキスト、配布資料等の自習
	7	完全競争と独占（2）	テキスト、配布資料等の自習
	8	市場支配力と集中度（1）	テキスト、配布資料等の自習
	9	市場支配力と集中度（2）	テキスト、配布資料等の自習
	10	参入と退出（1）	テキスト、配布資料等の自習
	11	参入と退出（2）	テキスト、配布資料等の自習
	12	合併と企業結合規制（1）	テキスト、配布資料等の自習
	13	合併と企業結合規制（2）	テキスト、配布資料等の自習
	14	プライスリーダーシップモデル（1）	テキスト、配布資料等の自習
	15	プライスリーダーシップモデル（2）	テキスト、配布資料等の自習
	16	コンテストブル市場理論（1）	テキスト、配布資料等の自習
	17	コンテストブル市場理論（2）	テキスト、配布資料等の自習
	18	ネットワーク経済学（1）	テキスト、配布資料等の自習
	19	ネットワーク経済学（2）	テキスト、配布資料等の自習
	20	寡占の理論（1）	テキスト、配布資料等の自習
	21	寡占の理論（2）	テキスト、配布資料等の自習
	22	寡占の理論（3）	テキスト、配布資料等の自習
	23	共謀（1）	テキスト、配布資料等の自習
	24	共謀（2）	テキスト、配布資料等の自習
	25	カルテルと合併（1）	テキスト、配布資料等の自習
	26	カルテルと合併（2）	テキスト、配布資料等の自習
	27	製品差別化と広告	テキスト、配布資料等の自習
	28	技術変化と研究開発（1）	テキスト、配布資料等の自習
	29	技術変化と研究開発（2）	テキスト、配布資料等の自習
	30	垂直統合と垂直的制限	テキスト、配布資料等の自習
	31	総括	テキスト、配布資料等の自習

学	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 適宜、紹介する。
び の 実 践	学びの手立て テキストを丹念に読み、理解できるよう務めてください。
	評価 授業参加度（30％）、発言内容、小テスト等（70％）で総合的に評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 産業組織特殊研究Ⅰ・Ⅱ

科目基本情報	科目名 情報資源管理特論	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木 4	2
	担当者 又吉 光邦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年		
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
学びの継続	評価			
	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人的資源管理特論	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	1 年	kiwahashiアットまーくokuu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、国内・国外の企業事例を読み解きながら、経営学の代表的なトピックをそのつど共有しつつ、人的資源管理の問題と課題を見いだしていく。	メッセージ 企業経営においては、組織の戦略や目標を達成するために、従業員たちがよりよく働けるよう設計される。しかし一方で人間の欲求は多様であり、状況に応じて変わっていく。他方で環境の変動にあわせて革新が求められるにもかかわらず、組織は簡単には変わらない。ここに人間を管理するうえでの難しさが存在する。
	到達目標 修士論文執筆に向けて、理論と事例の扱い方に慣れること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人的資源管理とは	講義内容の復習
	2	企業の誕生：メルカリ	各自報告資料作成
	3	会社とは誰のものか：カゴメ	各自報告資料作成
	4	環境・戦略・組織：フォード、GM	各自報告資料作成
	5	競争戦略の基本型：マクドナルド、モスバーガー	各自報告資料作成
	6	事業のリストラクチャリングと組織改革：GE	各自報告資料作成
	7	ビジネス・システム：コマツ	各自報告資料作成
	8	破壊的技術への対応と新規事業創造：富士フイルム	各自報告資料作成
	9	プラットフォーム・ビジネス：アップル	各自報告資料作成
	10	経営理念と組織文化：リクルート	各自報告資料作成
	11	人材のマネジメント：双日	各自報告資料作成
	12	日本的生産システム：トヨタ	各自報告資料作成
	13	成熟市場における商品開発：サントリー	各自報告資料作成
	14	環境変化期のマーケティング活動：良品計画	各自報告資料作成
	15	ビジネスの倫理：JR西日本	学習内容をまとめる
	16	まとめ	学習成果の振り返り
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 東北大学経営学グループ（2019）『ケースに学ぶ経営学 〔第3版〕』有斐閣ブックス。		
	学びの手立て 討論では積極的な発言を求める。		
	評価 特論への貢献度（討論での積極的な発言など）50%、課題50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 商学系の各科目。
-------	---

※ポリシーとの関連性 租税に関する理論・歴史・制度など専門知識を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	租税特論	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1 年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 租税の機能と役割について理解を深め、租税政策に対して自分自身で考える能力を養成する。	メッセージ ディスカッション中心となるので、問題意識をしっかりと持つように。
	到達目標 租税の基本的な特徴を理解し、租税が経済に与える影響などを分析することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスの確認
	2	国の財政と租税①	財政の役割に関する予習
	3	国の財政と租税②	国税に関する予習
	4	地方の財政と租税①	地方財政の役割に関する予習
	5	地方の財政と租税②	地方税に関する予習
	6	租税とは	租税の歴史について予習
	7	租税原則	租税原則論の系譜について予習
	8	租税の分類	租税の分類について予習
	9	文献の輪読①	指定文献の精読
	10	文献の輪読②	指定文献の精読
	11	文献の輪読③	指定文献の精読
	12	文献の輪読④	指定文献の精読
	13	文献の輪読⑤	指定文献の精読
	14	文献の輪読⑥	指定文献の精読
	15	文献の輪読⑦	指定文献の精読
	16	期末評価	復習
	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配付する。 文献は、開講時に指定する。		
	学びの手立て 財政学に関する基本的な知識を修得しておくこと。		
	評価 受講態度（60％）、課題（40％）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地方財政特論、応用マクロ経済特論
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域経済計量分析特論	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 一仁	1 年	メール(kazuhito.higa@oku.ac.jp)で問い合わせください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	論文の作成において、データを収集し、加工・分析することで、より客観的かつ説明力の高い主張をすることが可能になる。本講義では、経済学や論文の作成に必要な様々な分析ツールとそれに必要な数学・統計学について紹介し、また既存の研究で用いられている分析方法等の説明を行う。これらの分析ツールや研究手法は、修士論文の作成等において、実証的な研究を行う際に応用可能である。	修士論文に限らず、単なる意見や感想だけでは主観的で他人の納得や理解を得ることはできません。客観的な事実、特にこの講義で紹介する統計やデータの扱い方、分析手法の習得を目指します。これらは説得力の高い主張や結論を裏付ける道具となります。

到達目標

1. 修士論文の作成に必要な統計分析の手法について理解できる。
統計学やデータ分析の解説から始まり、定義・計算の方法やその背景・理由を解説する。
2. 修士論文の作成に必要な統計分析を実施できる。
知識として把握するだけでなく、課題を行うことで、社会などの現場や修士論文のデータ分析に応用できる知識を習得する。
3. 既存研究で用いられている分析手法を理解する。
既存の研究で用いられている分析手法を理解・分析し、分析手法の理解を深め、修士論文等で分析を応用する知識を習得する。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 オリエンテーション及び数学の復習 2 統計学の基礎（1）：標本と母集団 3 統計学の基礎（2）：記述統計学 4 統計学の基礎（3）：最小二乗法と単回帰分析 5 統計学の基礎（4-1）：重回帰分析 6 統計学の基礎（4-2）：重回帰分析 7 データ分析（1-1）：操作変数法 8 データ分析（1-2）：操作変数法 9 データ分析（2-1）：プロビット回帰分析 10 データ分析（2-2）：プロビット回帰分析 11 データ分析（3-1）：ロジスティック回帰分析 12 データ分析（3-2）：ロジスティック回帰分析 13 データ分析（4-1）：パネルデータ分析 14 データ分析（4-2）：パネルデータ分析 15 データ分析（5-1）：因子分析 16 まとめ・期末評価
	テキスト・参考文献・資料など 必要な文献は適宜指定します。参考書として下記の書籍を挙げます。 浅野・中村（2009）『計量経済学 第2版』、有斐閣。 山本（2015）『実証分析のための計量経済学 一正しい手法と結果の読み方一』、中央経済社。 Jeffrey M. Wooldridge（2010）`Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, Second Edition,` MIT Press.
	学びの手立て 1. この講義では、数学を使います。統計学に関連する数学をしっかりと理解しておいてください。 2. 大学生レベルのデータ解析の知識（計量経済学等）を習得していることが非常に望ましい。 3. 講義→演習→課題→解説のサイクルで講義を進めます。課題に取り組むには、講義・演習にしっかり取り組む必要があります。また、理解を深めるためには、時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。 4. 大学院では、関連書籍を読んで、予習・復習を行い、講義時間外の自主学習が重要です。

評価

レポートまたは試験(100%)で総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経済情報統計解析特論、数理経済情報特論
-------	--

地域経済発展とその政策に関する専門的知識の習得を通じて、地域経済への政策効果の分析と評価を行うための視座を習得する。

[一般講義]

科目基本情報	科目名 地域経済政策特論	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	火 5	2
	担当者 鹿毛 理恵	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	研究室（5528） メール：kage@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 経済学の基礎から応用まで一通り学んでいることを前提とし、国内外の経済的動向等に関心があり、地域経済（沖縄、日本、アジアなど）およびその経済開発・産業振興政策、地域経済統合などの諸理論について学び、データ収集と分析を通じて政策評価を行うための視座と手法を身につける。	メッセージ 修士論文作成に向けて、基礎文献の輪読、分析手法の習得を報告とディスカッションを交えて行うため、積極的な姿勢を求める。
	到達目標 地域経済と様々な政策を理解する上での基礎知識、分析手法を取得し、地域が抱える多様な課題を抽出した上で、政策評価を行うための能力を養う。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の概要、目的、評価方法等について	シラバスの確認
	2	研究テーマの確認・報告とディスカッション	地域経済に関する文献収集と整理
	3	地域経済に関する文献のリストアップと文献選定	選定した文献を読む
	4	文献1の輪読と報告①	選定した文献を読む
	5	文献1の輪読と報告②	選定した文献を読む
	6	文献1の輪読と報告③	選定した文献を読む
	7	文献1の輪読と報告④	選定した文献を読む
	8	文献1の輪読と報告⑤	選定した文献を読む
	9	小括-選定文献の小括とディスカッション	選定した文献を読む
	10	文献2の輪読と報告①	選定した文献を読む
	11	文献2の輪読と報告②	選定した文献を読む
	12	文献2の輪読と報告③	選定した文献を読む
	13	文献2の輪読と報告④	選定した文献を読む
	14	文献2の輪読と報告⑤	選定した文献を読む
	15	文献2の輪読と報告⑥	選定した文献を読む
	16	総括-文献輪読の振り返り	ふりかえり
	テキスト・参考文献・資料など 講義の前半時に履修者の研究テーマ等、関心事項に沿って、輪読文献を選定する。 また、必要に応じて、資料等を配布し、講義を行う。		
学びの手立て 現在の経済のグローバル化と地域経済を巡る経済時事に関心を払い、関連する文献、論文等に目を通しておくことを求める。			
評価 報告資料作成（課題提出）を50%、ディスカッション等への参加姿勢を50%で評価を行う。			

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 応用マクロ経済学特論、沖縄経済特論、地方財政特論など
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域産業セミナー	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉正茂、鹿毛、仲地、李、上江洲、中野、友知、比嘉一仁	1 年	各回の担当講師に連絡する	

学びの準備	ねらい 地域産業セミナーは、専門性と複合的知識を実社会において体現し、地域産業振興の原動力となる高度の専門的職業人の養成と、商学・経済学の分野の有機的連携に基づく研究活動の促進を目的としており、商学系と経済学系の内容を加味した学際的な講義科目としてオムニバス集中講義方式で開設されている。	メッセージ 修士論文の工程や研究手法を最初に学ぶこと。
	到達目標 修士課程における研究の進め方について学ぶ。 商学系と経済学系の幅広い地域を学ぶことにより、専門領域における学習方法を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第01回 8月 1日 月曜日 4限 比嘉正茂 ガイダンス、研究の進め方 第02回 8月 1日 月曜日 5限 比嘉正茂 経済系 応用マクロ経済学特論 第03回 8月 1日 月曜日 6限 鹿毛理恵 経済系 地域経済政策特論 第04回 8月 1日 月曜日 7限 鹿毛理恵 経済系 地域経済政策特論 第05回 8月 2日 火曜日 4限 仲地健 経済系 租税特論 第06回 8月 2日 火曜日 5限 仲地健 経済系 租税特論 第07回 8月 2日 火曜日 6限 季相典 商学系 観光情報処理特論 第08回 8月 2日 火曜日 7限 季相典 商学系 観光情報処理特論 第09回 8月 3日 水曜日 4限 中野謙 経済系 地域発展特論 第10回 8月 3日 水曜日 5限 中野謙 経済系 地域発展特論 第11回 8月 3日 水曜日 6限 上江洲薫 経済系 地域資源経済特論 第12回 8月 3日 水曜日 7限 上江洲薫 経済系 地域資源経済特論 第13回 8月 4日 木曜日 4限 友知政樹 経済系 経済情報統計解析特論 第14回 8月 4日 木曜日 5限 友知政樹 経済系 経済情報統計解析特論 第15回 8月 4日 木曜日 6限 比嘉一仁 経済系 地域経済計量分析特論 第16回 8月 4日 木曜日 7限 比嘉一仁 経済系 地域経済計量分析特論	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定は特にありません。 各担当教員から参考文献について通知します。	
	学びの手立て 1年次の必修科目として設定されていることにより、学生が相互に啓発し、学習・研究を深めてゆくことができる。	
	評価 受講態度等（100％）により評価する	

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目：各領域の特殊研究
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域資源経済特論	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 薫	1 年	研究室5-632 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 自然環境は地域経済活動のみならず地域社会の基盤を継続していくうえで重要な地域資源である。持続的な地域発展を図るには地域資源の活用・保全が求められる。本講義では、持続可能な観光地経営について理論的・実証的に学ぶ。	メッセージ 地域資源を活用した地域活性化や地域振興に興味がある学生を歓迎し、身近にある地域資源を持続可能な観光地経営にどのように活用するかを考えよう。
	到達目標 地域の資源・観光まちづくりの仕組みを理解し、地域課題を解決するための基礎的理論を理解する。また、地域資源を活用した地域発展の方策について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス：観光地経営とは	テキスト序章を事前に読む
	2	観光地の特性と経営状況を把握する	テキスト第1章を事前に読む
	3	関係主体を巻き込んで説得力のある将来ビジョンを策定（1）	テキスト第2章を事前に読む
	4	関係主体を巻き込んで説得力のある将来ビジョンを策定（2）	同上
	5	地域を見つめ直して新たな魅力を生み出す（1）	テキスト第3章を事前に読む
	6	地域を見つめ直して新たな魅力を生み出す（2）	同上
	7	滞在化・平準化のための仕組み作り（1）	テキスト第4章を事前に読む
	8	滞在化・平準化のための仕組み作り（2）	同上
	9	観光資源の保存と活用の両立（1）	テキスト第5章を事前に読む
	10	観光資源の保存と活用の両立（2）	同上
	11	観光地としてのブランドの形成・維持・向上（1）	テキスト第7章を事前に読む
	12	観光地としてのブランドの形成・維持・向上（2）	同上
	13	地域の観光財源の確保（1）	テキスト第8章を事前に読む
	14	地域の観光財源の確保（2）	同上
	15	観光地のリスクマネジメント（1）	テキスト第9章を事前に読む
	16	観光地のリスクマネジメント（2）、全体まとめ	同上
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など テキストは、日本交通公社編著（2019）『観光地経営の視点と実践 第2版』 参考図書や論文などは適宜紹介する。		
	履修の心構え：本特論では基本的に輪読形式で行い、教科書の内容やその内容と関連する論文等を熟読し、議論となる視点を整理し、議論を行う。 学びを深めるために：教科書以外にも、地域資源やまちづくり、観光振興などの文献等を熟読する。		
	評価 平常点：50%、レポート：50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 各領域の特殊研究Ⅰ・Ⅱを受講し、修士論文等に活用して欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域社会経済システム特殊研究Ⅰ	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	1 年	研究室（5629）、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本特殊研究は、まず1)ミクロ経済学、企業経済学および経営学の基礎知識の確認、2)地域における経済活動から生ずる様々な課題の発見、3)組織の経済性と社会性のありかた、という順序で構成されている。とりわけ社会課題を解決するための手法として社会的企業の役割がにわかに注目されていることを理解していく。	メッセージ 原則として次年度の完成を目標にする修士論文とは、いくつもの紆余曲折を経て、初めて完成に至るものである。そのため、幾多のプロセスにおいても研究の深化はもちろんのこと、多様な言及や批判をも受け入れるような姿勢も育成する。
	到達目標 1)修士論文を構築するための前提条件ができている。 2)修士課程修了後のビジョンが明確になっている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 オリエンテーション（テキストの選定、講読方法などの打ち合わせ） 第2回～第6回 テキスト講読・ディスカッション（経済学および経営学などを主要テーマとする） 第7回～第11回 テキスト講読・ディスカッション（地域における経済活動から生ずる様々な課題を主要テーマとする） 第12回～第16回 テキスト講読・ディスカッション（社会的企業をはじめとする組織の経済性と社会性を主要テーマとする） 第17回～第30回 修士論文の作成に向けた課題設定、報告およびディスカッション 第31回 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 溝端・小西・出見世編著『市場経済の多様化と経営学』ミネルヴァ書房、2010年。 日本大学商学部「公と私」研究会編『公の中の私、私の中の公』日本評論社、2013年。 馬頭忠治『アソシエーションとマネジメント』ラゲーナ出版、2013年。 橋本理『非営利組織研究の基本視角』法律文化社、2013年。 村上了太「日本専売公社民営化の今日的意義：タバコ事業を中心とした経営形態転換論争と経営の自主性」『同志社商学』第69巻第5号、2018年3月。
	学びの手立て 課題の設定、章節の構築、タイトルとの整合性など修士論文の構想・執筆に関しては、演習の時間帯以外でも作成・指導にあたる。そのため、正課外においても常に執筆を意識すること。
	評価 研究意欲((50点)、課題報告（50点）などを総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域社会経済システム特殊研究Ⅱ、地域社会経済システム特論
-------	--

修士論文を完成し、自己の研究を専門分野の中に位置づけ、研究の成果と意義について客観的に把握する能力を身につける。

／演習]

単位
4

かつとokiu

到達目標

- 1) 修士論文が幾多の批判に耐えられる内容になっていること。
- 2) 1) の内容と形式を伴って、修士号の学位授与に値するまでの学術水準に到達させること。

評価
研究意欲（50点）、課題報告（50点）などを総合的に判断する。

次のステージ・関連科目

大学院後期博士課程進学、営利組織・非営利組織への就職、国家・地方公務員および教職員への登用など。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域社会経済システム特論	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	1 年	研究室（5629）、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本特論は、企業経済学および経営学を基礎とした講義である。学部におけるミクロ経済学や経営学の基礎知識を所与の条件とし、企業の行動原理を理解する。また企業に関連する組織の社会性、経済性そして持続性に関しても視野を広げる。文献講読やディスカッションを通して、基礎知識を専門知識へと深化させる。	メッセージ 修士論文を意識した展開を図りたい。
	到達目標 1) 社会や経済の仕組みが理解できる。 2) 解決すべき社会的課題が発見できる。 3) 2)を解決する手立てを考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 オリエンテーション（テキスト他の検討も含む） 第2回～第10回 テキスト講読・ディスカッション（社会課題を主要テーマとする） 第11回～第19回 テキスト講読・ディスカッション（経営学を主要テーマとする） 第20回～第28回 テキスト講読・ディスカッション（社会的企業を主要テーマとする） 第29回～第31回 論点整理・まとめ
	テキスト・参考文献・資料など ロバート・Ｂ・ライシュ『暴走する資本主義』（雨宮・今井訳）東洋経済新報社、2008年。 ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る』（猪熊訳）早川書房、第5版、2009年。 頭川博『資本と貧困』八朔社、2010年。 ビバリー・シュワルツ（藤崎香里訳）『静かなるイノベーション』英治出版、2013年。 村上了太「日本専売公社民営化の今日的意義：タバコ事業を中心とした経営形態転換論争と経営の自主性 」『同志社商学』第69巻第5号、2018年3月。
	学びの手立て 文献研究やレポートの作成に関しては、本講義以外の時間帯でも相談を受け付ける。
	評価 研究意欲（50点）、課題報告（50点）などを総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域社会経済システム特殊研究Ⅰ、地域社会経済システム特殊研究Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域発展特論	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1 年	授業終了後と月曜2限のオフィスパワーで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 後掲の「基本文献」の講読によって、地域産業の発展と変容について理解を深めます。その上で、受講者の関心のある地域・産業に焦点を当て、その発展と変容について調査・報告を行ってもらいます。また各回の講読と調査報告に対しては、クラス全体で議論を行い、知識の共有を図ります。	メッセージ 授業での学びが研究や社会生活に役立つよう、関心のある地域産業分野について詳しく調査し、活発に議論してください。
	到達目標 ①地域産業の発展と変容について理解し、報告することができる（「講読の内容」で評価） ②特定の地域や産業の発展について調査し、今後の展望までをまとめて報告できる（「調査報告の内容」で評価） ③他者の報告に対して意見や質問などを行い、議論を深めることができる（「授業への参加」で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	受講ガイダンス（受講ルール、成績評価方法などの確認）	ガイダンスの内容を確認しておく
	2	文献の選定、報告順序の決定	報告と議論の準備をしておく
	3	2010年代日本の産業構造とその変容	報告と議論の準備をしておく
	4	日本・韓国・中国造船業の発展過程と課題	報告と議論の準備をしておく
	5	食料品製造業の構造的変化とグローバル化	報告と議論の準備をしておく
	6	建設産業における労働者化する個人請負就労者とその特徴	報告と議論の準備をしておく
	7	多国籍製菓企業の特質と産業分析	報告と議論の準備をしておく
	8	21世紀・ベトナム産業の展開	報告と議論の準備をしておく
	9	「ものづくり」の危機と企業ガバナンス改革	報告と議論の準備をしておく
	10	製品アーキテクチャーの革新とバリューチェーンにおける「支配」	報告と議論の準備をしておく
	11	日本企業の競争力低下と「国際競争力ランキング」	報告と議論の準備をしておく
	12	成長なき経済、企業の余剰資金、対外M&A	報告と議論の準備をしておく
	13	企業金融と企業買収	報告と議論の準備をしておく
	14	不正会計と監査制度	報告と議論の準備をしておく
	15	米国機関投資家投資行動の現代的特質	報告と議論の準備をしておく
	16	前期総括	文献選定の準備をしておく
	17	文献の選定、報告順序の決定	報告と議論の準備をしておく
	18	大都市工業集積における地域産業政策の可能性	報告と議論の準備をしておく
	19	中小企業振興と地方行政、企業家の役割	報告と議論の準備をしておく
	20	グローバル経済下の地域中小企業の役割	報告と議論の準備をしておく
	21	浜松地域の繊維企業の挑戦	報告と議論の準備をしておく
	22	「循環型地場産業」の創造	報告と議論の準備をしておく
	23	東京オリンピックと地域経済	報告と議論の準備をしておく
	24	中国の新型都市化とサステナビリティ	報告と議論の準備をしておく
	25	企業と環境問題の関係性	報告と議論の準備をしておく
	26	原子力発電の持続可能性	報告と議論の準備をしておく
	27	調査報告・議論①	調査報告書をまとめておく
	28	調査報告・議論②	調査報告書をまとめておく
	29	調査報告・議論③	調査報告書をまとめておく
	30	調査報告・議論④	調査報告書をまとめておく
	31	後期総括	全体を振り返りまとめを行う

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 基本文献は以下の3冊です。その他の文献については、各自の関心に応じて適宜アドバイスします。 大西勝明、小阪隆秀、田村八十一編著（2018）『現代の産業・企業と地域経済』晃洋書房 中西聡編（2017）『経済社会の歴史』名古屋大学出版会 安田信之助編著（2019）『地域発展の観光戦略』創成社
	学びの手立て 各回の授業は、①受講者による報告、②教員による解説、③全体での議論の順に進めます。したがって、受講前に報告の準備を整えておくことと、議論に積極的に参加することを求めます。
	評価 講読・調査報告の内容50%、授業への参加（議論や発言などの積極性）50%
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 沖縄経済特論、地域小売特論、地域産業セミナー、地域社会経済システム特論、地方財政特論

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地方財政特論	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1 年	授業後に教室で受けます。それ以外は、研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 公共部門（国、地方公共団体）の役割は、民間部門（家計、企業）が活動する枠組み（法律、制度、規制など）を整え、また民間企業が供給することが困難な公共サービス（社会資本、教育、福祉など）を提供することにある。住民に身近な公共サービスを供給する地方公共団体（県、市町村）の役割が高まっており、沖縄県の財政, 地域振興について理解することが重要である。	メッセージ 身近な市町村や沖縄県の財政、地域振興について理解を深めましょう。
	到達目標 ①地方財政の基本的なしくみを理解できる ②国と都道府県・市町村の財政関係を理解できる ③沖縄県の財政の実情について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地方財政とは	参考文献①PP1－10を読む
	2	国と地方の役割	参考文献①PP1－10を読む
	3	地方歳入の概要	参考文献①PP42-53を読む
	4	地方税、地方交付税、国庫支出金	参考文献①PP42 - 53を読む
	5	地方歳出の概要	参考文献①PP31 - 40を読む
	6	目的別歳出と性質別歳出	参考文献①PP31 - 40を読む
	7	地方分権の動向①	配布資料を復習する
	8	地方分権の動向②	配布資料を復習する
学びの実践	9	地方分権、地域主権改革の動向③	配布資料を復習する
	10	沖縄県の財政①	参考文献①PP105 - 120を読む
	11	沖縄県の財政②	参考文献①PP105 - 120を読む
	12	沖縄県の財政③	参考文献①PP122 - 137を読む
	13	地域振興と沖縄振興計画①	沖縄県HPの関連資料を読む
	14	地域振興と沖縄振興計画②	沖縄県HPの関連資料を読む
	15	地域振興と沖縄振興計画③	内閣府HP関連資料を読む
	16	講義の総括	講義の総復習をする
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献は以下の通りです。講義の初めの時間に説明します。 ①池宮城秀正編著『国と沖縄県の財政関係』 ②林良嗣著『地方財政』有斐閣ブックス ③総務省、『地方財政白書』		
	学びの手立て 制度を調べる場合は、比較的新しい文献を参考にしてください。また、地方財政を所管する総務省のHP、内閣府HP、都道府県・市町村のHP、新聞報道などが実情を知るのに有用です。		
	評価 授業参加度40%、授業における報告30%、課題提出30%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域資源経済特論、沖縄経済特論、地域発展特論
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	比較経営特論	通年	土 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐久本 朝一	1 年	講義時間終了後が望ましい。	

学びの準備	ねらい 経営学や経営組織論の一般的な学説および古典的な理論を概説した上で、それをより特化した日本的経営論を展開する。というのも、本特論の意図が沖縄の企業経営を集団主義的な日本的経営の中に位置づけて、日本的経営におけるメリットを、ミクロ的な地域に移植しようとするにあるからである。具体的には、その代表的な雇用管理制度、いわゆる日本的経営の三種の神器としての長期的雇用	メッセージ 比較経営に関する専門的な論文を作成することで、国際経営に関する知識を学ぶ。
	到達目標 比較経営学に関する専門書を理解し実践的に応用しうる能力を身につける	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済発展と企業者活動Ⅰ 以下、遠隔授業を含む	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	経済発展と企業者活動Ⅱ	修士論文の構想Ⅰ 遠隔授業
	3	日本型雇用システムの特質Ⅰ	修士論文の構想Ⅱ
	4	日本型雇用システムの特質Ⅱ	関連図書の朗読Ⅰ
	5	日本型雇用システムの特質Ⅲ	関連図書の朗読Ⅱ
	6	経営理念の国際比較Ⅰ	日本の経営理念Ⅰ
	7	経営理念の国際比較Ⅱ	日本の経営理念Ⅱ
	8	欧米と日本の経営組織の比較Ⅰ	経営理念の国際比較Ⅰ
	9	欧米と日本の経営組織の比較Ⅱ	経営理念の国際比較Ⅱ
	10	アジア型経営組織と日本的経営Ⅰ	日本的経営と国際化Ⅰ
	11	アジア型経営組織と日本的経営Ⅱ	日本的経営と国際化Ⅱ
	12	沖縄の経営組織の特質Ⅰ	沖縄における優良企業の調査Ⅰ
	13	沖縄の経営組織の特質Ⅱ	沖縄における優良企業の調査Ⅱ
	14	修士論文の構想Ⅰ	論文構想の発表Ⅰ
	15	修士論文の構想Ⅱ	論文構想の発表Ⅱ
	16	修士論文のレジュメの書き方	修士論文構想の発表Ⅲ
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本著「能力主義管理の国際比較」 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著 者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所		
	学びの手立て 講義時間外で講義に展開されている専門書を読んでくることが望ましい。		
	評価 レポートの提出2回（25点＋25点）出席および議論への参加（50点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較経営特殊研究、人的資源管理論など。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性 マーケティングの専門的な知識・理論・技術を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 ビジネス特論	期 別	曜日・時限	単 位
		集中	集中	2
	担当者 原田 優也、-宮森 正樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	宮森正樹 Email: miyamori@okiu.ac.jp 原田優也 Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、沖縄小売流通業、地域流通のマーケティング、アジア消費行動、アジア広告戦略、海外市場の日本型コンビニの出店戦略などの国内外ビジネス現状を学び、実践的な分析能力を養うことを目的とする。	メッセージ 1) 授業を講義形式とディスカッション形式を採用する。 2) 地域小売業の現状を解説しながら、ビジネスケーススタディを紹介する。
	到達目標 小売業などに関するビジネス基礎について理解できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 科 目： ビジネス特論 担当教員： 原田優也・宮森正樹 開講時間： 集中講義、2023年8月6日（日）～8月8日（火） 第01回 2023年8月6日、日 1 限、原田優也 オリエンテーション 第02回 2023年8月6日、日 2 限、原田優也 ビジネス課題 1（ブランディング戦略） 第03回 2023年8月6日、日 3 限、原田優也 ビジネス課題 2（高級志向ブランド戦略） 第04回 2023年8月6日、日 4 限、原田優也 ビジネス課題 3（SNSブランディング） 第05回 2023年8月6日、日 5 限、原田優也 ビジネス課題 4（シニア層の購買行動） 第06回 2023年8月6日、日 6 限、原田優也 ビジネス課題 5（観光マーケティング） 第07回 2023年8月7日、月 1 限、原田優也 レポート課題の作成と点検 第08回 2023年8月7日、月 2 限、原田優也 （中間）レポートの提出 第09回 2023年8月7日、月 3 限、宮森正樹 沖縄の小売流通業の概況 第10回 2023年8月7日、月 4 限、宮森正樹 全国の小売流通業の概況 第11回 2023年8月7日、月 5 限、宮森正樹 世界の小売流通業の概況 第12回 2023年8月8日、火 1 限、宮森正樹 地域流通のマーケティング 1 第13回 2023年8月8日、火 2 限、宮森正樹 地域流通のマーケティング 2 第14回 2023年8月8日、火 3 限、宮森正樹 ビジネスとしての流通産業、起業 第15回 2023年8月8日、火 4 限、宮森正樹 ビジネスとしての流通産業、発展 第16回 2023年8月8日、火 5 限、宮森正樹 まとめ (新型コロナ感染拡大防止や学習状況などにより、授業計画を変更することがある)	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて講義中に紹介します。	
	学びの手立て 経営・マーケティングに関するビジネス課題の文献を読んでおくこと	
	評価 発表 (50%)、レポート (50%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究II
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 マーケティングの専門的な知識・理論・技術を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マーケティング・コミュニケーション特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也・宮森 正樹	1 年	原田優也 Email: mongkhol@okiu.ac.jp 宮森正樹 Email: miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マーケティングコミュニケーションのツールを理解する。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 企業のマーケティングコミュニケーションの役割について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 科 目： マーケティング・コミュニケーション特論 担当教員： 原田優也・宮森正樹 開講時間： 集中講義、2023年8月9日（水）～8月11日（金） 第01回 2023年8月09日、水 1 限、原田優也 オリエンテーション 第02回 2023年8月09日、水 2 限、原田優也 MC機能と役割 第03回 2023年8月09日、水 3 限、原田優也 MCとブランド戦略 第04回 2023年8月09日、水 4 限、原田優也 MCと消費行動 第05回 2023年8月09日、水 5 限、原田優也 MCとコンテンツ戦略 第06回 2023年8月09日、水 6 限、原田優也 MCの成功事例 第07回 2023年8月10日、木 1 限、原田優也 MCの失敗事例 第08回 2023年8月10日、木 2 限、原田優也 中間報告 第09回 2023年8月10日、木 3 限、宮森正樹 広告の基本概念 第10回 2023年8月10日、木 4 限、宮森正樹 広告ビジネス 1 第11回 2023年8月10日、木 5 限、宮森正樹 広告ビジネス 2 第12回 2023年8月11日、金 1 限、宮森正樹 人的販売 第13回 2023年8月11日、金 2 限、宮森正樹 セールス・プロモーション 第14回 2023年8月11日、金 3 限、宮森正樹 パブリック・リレーションズ 第15回 2023年8月11日、金 4 限、宮森正樹 パブリシティ 第16回 2023年8月11日、金 5 限、宮森正樹 まとめ （新型コロナ感染拡大防止や学習状況などにより、授業計画を変更することがある）	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて講義中に紹介します。	
	学びの手立て 経営・マーケティングに関するビジネス課題の文献を読んでおくこと	
	評価 発表(50%)、レポート(50%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究I、マーケティング特殊研究II
-------	--

※ポリシーとの関連性 マーケティング分野などの専門的な知識・理論・技術を習得する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マーケティング特殊研究 I	通年	木 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1 年	研究室：5 6 3 3 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本特殊研究は、沖縄観光ビジネス、グローバルマーケティング、アジアマーケティングなどのケースステディを紹介する。また、地域ビジネスにおけるマーケティングの役割、価値生成の原理、マーケティング環境分析、マーケット・セグメンテーション、ターゲティングとポジショニング、製品開発、価格設定、プロモーション、流通の各段階において競争優位などについて概説する。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 修士論文作成に必要なマーケティング分析手法を把握する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 【第1セメスター】 1週：オリエンテーション 2週：修士論文とは 3週～ 5週：先行研究 6週～ 7週：調査方法 8週～11週：仮説設定 12週～14週：研究課題発表 15週：研究計画書の修正 16週：研究計画書の提出 【第2セメスター】 17週：後期日程のガイダンス 18週：特定課題の選定 19週～25週：課題報告と討論 26週～31週：レポートの提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に紹介します。 英文献を含め、必要に応じて講義中に紹介します。
	学びの手立て マーケティング、消費者行動、ブランド戦略、広告戦略などの関連書籍を読んで予習・復習を行う。
	評価 課題の発表（40％）、レポート（40％）、平常点（20％）

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究II
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マーケティング特殊研究Ⅱ	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2 年	研究室：5 6 3 3 mongkhol@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 第1年次末に選定したマーケティング課題（消費者行動、企業戦略、経営戦略など）に関する修士論文のテーマに基づき、論文の書き方、調査の進め方を指導する。必要な情報やデータの収集を行わせると共に、研究内容について討論を重ねながら修士論文を完成させる。	メッセージ フィールドワーク、演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 修士論文作成に必要なマーケティング分析手法を把握する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 【第1セメスター】 1週～ 3週：修士論文のテーマ発表 6週～10週：修士論文テーマのフィールドワーク、討論と修正 11週～14週：中間報告の作成 15週：修士論文の中間報告の提出と発表 【第2セメスター】 16週～20週：修士論文原稿作成と討論 21週～25週：修士論文原稿作成と討論 26週～29週：修士論文の修正 30週～31週：修士論文の完成
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に紹介します。
	学びの手立て マーケティング、消費者行動、ブランド戦略、広告戦略などの関連書籍を読んで予習・復習を行う。
	評価 平常点（20点）、 中間発表（40点）と修士論文提出（40点）を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 博士後期課程、研究者
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マーケティング・マネジメント特論	通年	木 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1 年	原田優也研究室 (5633号室) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、消費者行動の実証的研究を指導することにより、消費者情報処理に関する実践的な分析能力を養うことを目的とする。消費者の調査方法論について講義し、各自が具体的な調査プロジェクトを計画し、情報の収集からデータの整理と要約、仮説の統計的検定法について統計分析実習と並行して調査プロジェクトを進める。	メッセージ 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 マーケティング役割、戦略計画とマーケティング・プロセスなどを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	資料1を読む
	2	消費者行動の定義と概念	資料1を読む
	3	マーケティングの概念と発展	資料1を読む
	4	プロジェクト・テーマの決定と説明	資料2を読む
	5	製品ライフサイクル	資料2を読む
	6	製品差別化と消費者購買意思決定	資料2を読む
	7	広告戦略と消費者行動	資料3を読む
	8	価格プレミアムと消費者の購買行動	資料3を読む
	9	購買前・購買・購買後の消費者行動分析	資料3を読む
	10	消費者の意思決定過程と情報処理	資料4を読む
	11	消費者心理と購買意志決定 1 (外部要因)	資料4を読む
	12	消費者心理と購買意志決定 2 (内部要因)	資料4を読む
	13	マーケティング課題の発表 1	発表課題の情報収集
	14	マーケティング課題の発表 2	発表課題の情報収集
	15	マーケティング課題の発表 3	発表課題の情報収集
	16	中間レポートの提出	レポートの作成
	17	後期日程のガイダンス	発表課題の情報収集
	18	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	19	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	20	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	21	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	22	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	23	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	24	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	25	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	26	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	27	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	28	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	29	マーケティング課題の選択	課題の情報収集
	30	課題内容の整理とまとめ	レポート作成の準備
	31	レポートの提出	レポート点検

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて講義中に紹介します。 英文献を含め、必要に応じて講義中に紹介します。
	学びの手立て 授業では毎回報告者を決めておき、報告者はレジュメを準備して報告する。 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。
	評価 発表(50%)、レポート(50%)
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究I・マーケティング特殊研究II